



予防歯科の主役は歯科衛生士。 教育環境作りは院長の役目です。



樽味 寿 院長



堤内 久枝 主任衛生士

たるみ歯科クリニック

兵庫県宝塚市 JR中山寺駅から徒歩約5分の閑静な新興住宅地に、2003年開業されました。定期健診と予防歯科を診療の中心とされ、地域の方々に信頼される快適な歯科医院を目指しておられます。

<http://www.tarumi-dc.com>

院長の樽味先生と主任衛生士の堤内さんに
たるみ歯科クリニックの衛生士教育について、お話をお聞きしました。

樽味先生：定期健診を継続していくには、来院される方々に歯科医院がお口の健康を守る快適なところと認識していただく必要があります。そのためには衛生士が患者さんの話をしっかり聴き、生き生きと働いている姿から安心感と信頼感を持っていただくことが大切だと思います。予防歯科や初期治療の主役は衛生士ですので、もちろんスキルアップは大変重要です。当医院では主任衛生士のもと、院内での衛生士教育に取り組んでいます。

堤内主任：院内での教育は、今年からカリキュラムを作って行っています。月に1回行っている全体実習の際は、診療時間を少し削ってもらって行っています。院内で実習教育を行うには場所や設備だけでなく、時間という大きな要素になりますので、先生のご理解とご協力が大きなバックアップになっています。

樽味先生：日常の診療の中で主任衛生士が、若い衛生士に的確にアドバイスできるのは大きいですね。教わる側も自主的に技術や知識の向上に努めるようになってきたと感じています。近くに目標となる人がいるというのも、若い衛生士にはいい影響を与えているのではないのでしょうか。

堤内主任：衛生士教育を行う上で、同じテクニックの基本を持っていることが大切です。昨年、私がお手伝いしたセミナーをベースに、たるみ歯科クリニックにふさわしいテクニックを1人1個の模型とマネキンを使って復習しています。何回も復習することで初めてテクニックが身に付けられると思います。

樽味先生：衛生士さんのスキルアップには、本人の向上心や意欲が一番ですが、それを育む環境を

作るのは院長の大きな役目だと思っています。結婚や出産で衛生士の仕事から離れることがあっても、また戻ってきて仕事がしたいと思ってもらえる医院にしたいですね。

スキルアップを目指し、
トレーニングに励む
歯科衛生士のみなさん

